

感冒に用いる漢方薬の選択（非漢方専門医向け）

日本東洋医学会特別ワーキンググループ

2023年12月11日

現在、漢方薬は一般診療で幅広く使用されております。

最近では、感冒症状に対して多くの漢方薬が処方され、流通が制限される状況が問題となっております。

複数の症状が同時に生じる感冒には、漢方薬の使い分けが必要となります。

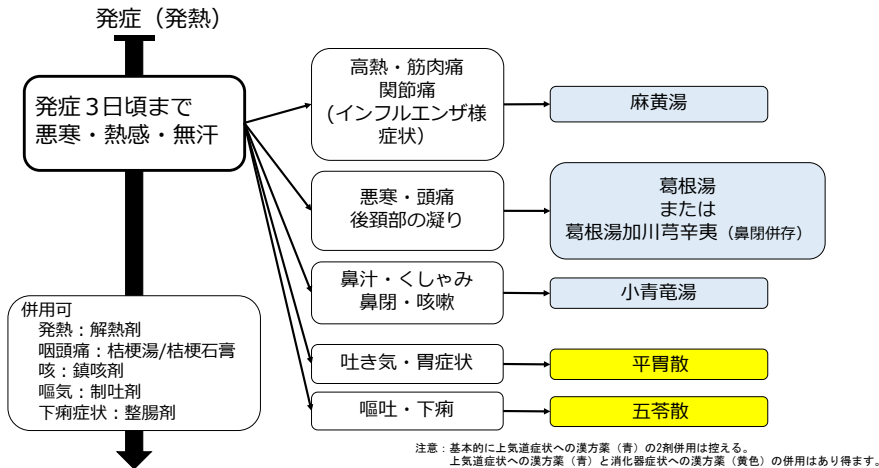
この簡易フローチャートでは、限られた薬剤資源を適正にかつ安全に使用していただくことを考えて、日本東洋医学会より、漢方薬の選択を提案させていただきます。漢方薬は基本的に単剤で用い、処方期間は5日以内を想定しています。

患者さんの体力や発症時期、症状の種類により選択し、ご活用いただけるようお願い致します。

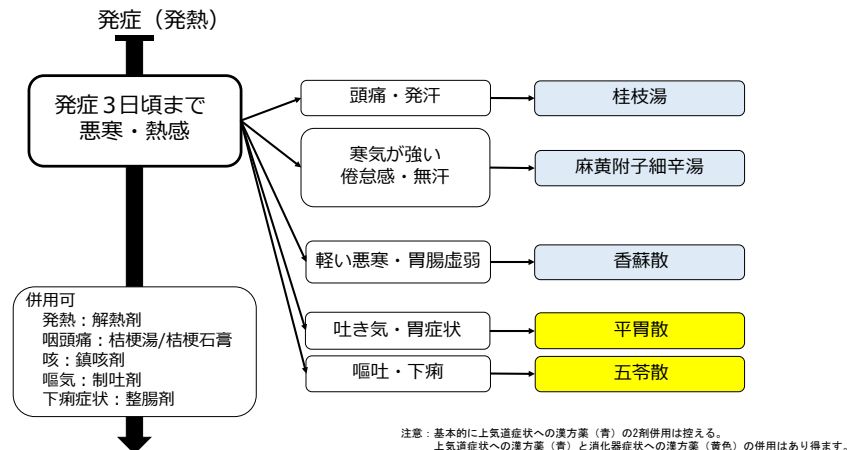
なお、漢方薬の処方の際には、保険適応病名や症状の記載が必要となりますことをご留意ください。

感冒に用いる漢方薬の選択（非漢方専門医向け 簡易フローチャート）

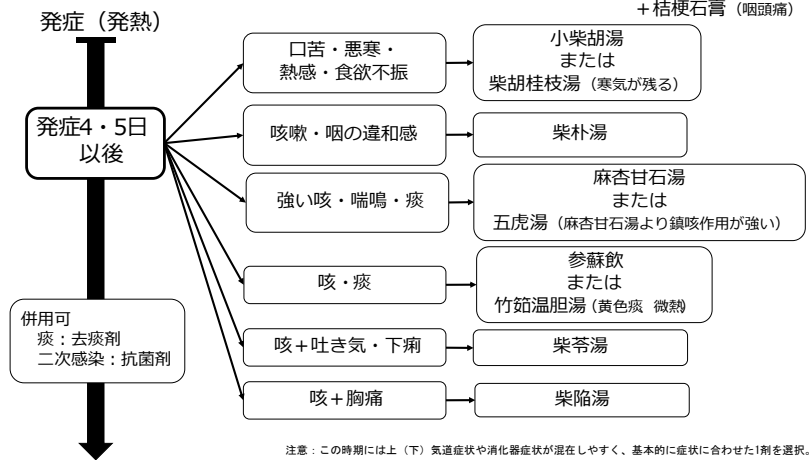
急性期（普段は元気な人）



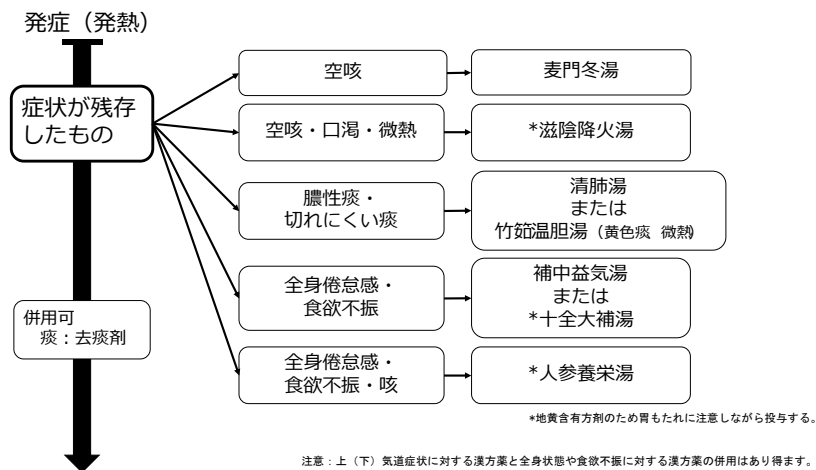
急性期（普段から、あまり元気がない人）



亜急性期



回復期



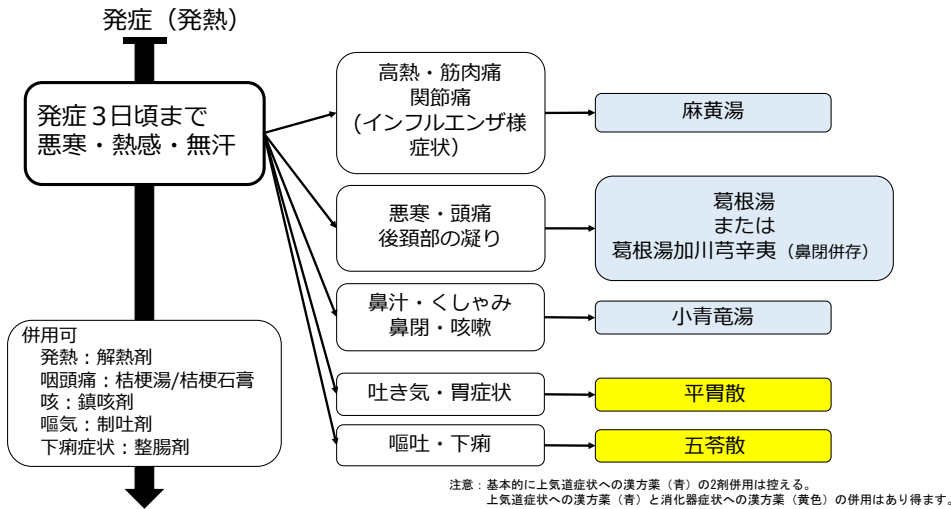
新型コロナウイルス感染症に対する漢方薬の活用については、下記の QR コードよりご覧下さい。

https://www.jsom.or.jp/medical/notice/pdf/COVID-19_dosing_suggestion_221217Ver_0.92.pdf

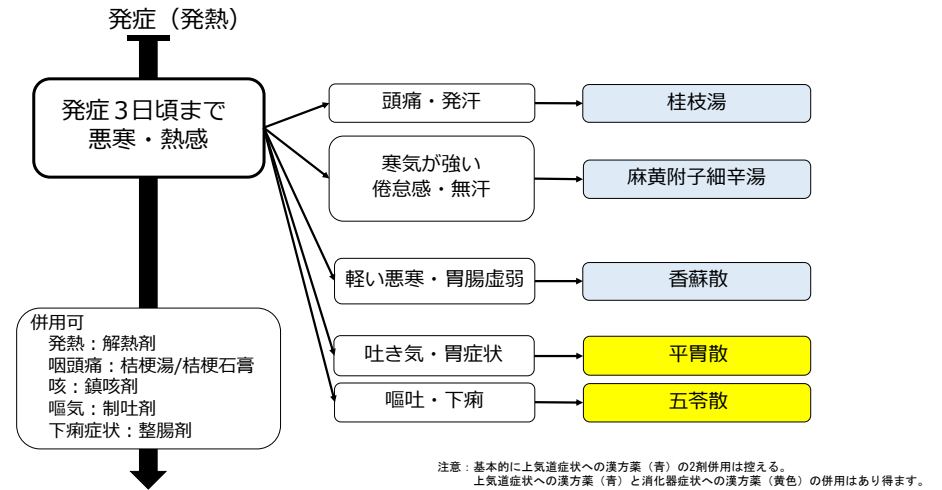


感冒に用いる漢方薬の選択（非漢方専門医向け 簡易フローチャート）

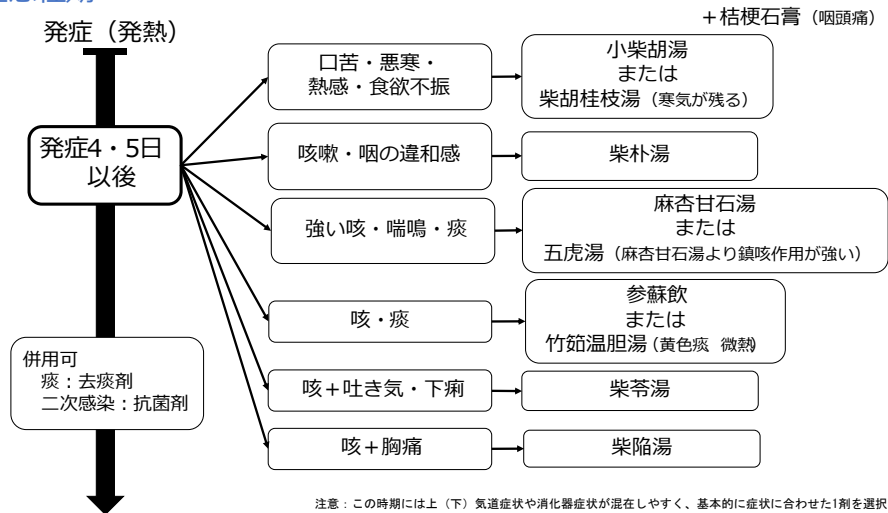
急性期（普段は元気な人）



急性期（普段から、あまり元気がない人）



亜急性期



回復期

